

# 日本基礎教育学会

(The Japanese Association of Fundamental Education)

一緒に21世紀の日本の教育を考えましょう。

会報 No.45

令和4年9月1日

## 令和4年度 日本基礎教育学会 第27回研究大会

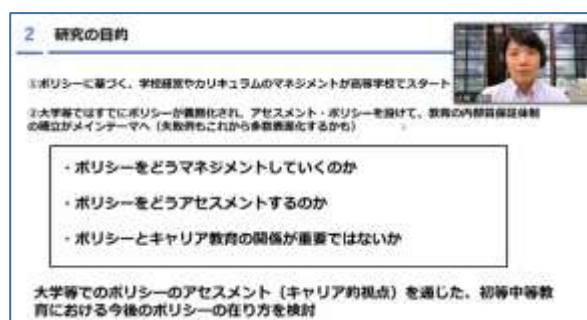
8月20日(土)、第27回研究大会を開催した。「危機の時代からの再生に果たす基礎教育のあり方」をテーマに、日本基礎教育学会会長 増田 吉史氏に基調講演をいただき、研究協議をもった。コロナ感染の拡大が懸念されることから、今年度の研究大会もZoomでの開催となった。参加者は17名、この危機の時代からの再生に基礎教育はどう関わっていくか、検討していった。

発表された内容、検討された内容を要旨のみになるが、紹介する。

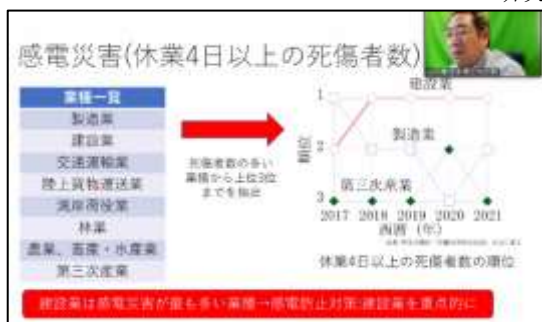
- (1) 開会
- (2) 会長挨拶 日本基礎教育学会会長 増田 吉史氏
- (3) 基調講演 「現職教員を守る研究会」設立宣言 …「なつかしい時間」より…  
日本基礎教育学会会長 増田 吉史氏
- (4) 研究発表
  - ① 高等教育におけるキャリア的視点からの初等教育・中等教育カリキュラム・マネジメントへの一考察—『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)』を通して—  
学校法人松商学園 上條 直哉氏
  - ② 感電災害を防止するための労働安全衛生教育についての研究 — 地域活性化の観点 —  
前橋工科大学 山中 憲行氏
  - ③ “ベースボール型”授業を創る — 中学校“ベースボール型”ゲームにおける遊びを取り入れた授業の提案 —  
十文字学園女子大学 相馬 満利氏
- (5) 講評 十文字学園女子大学 林 宣之氏
- (6) 閉会



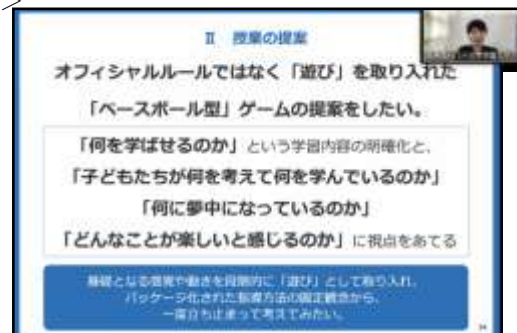
< 基調講演 >



< 研究発表① >



< 研究発表② >



< 研究発表③ >

平成5年、日本基礎教育学会は、奥田真丈先生により、創設された。小学校就学前後の人間形成の基礎を作る教育のあり方を、教育界の中心人物が集い、研鑽しあう活気あふれる学会であった。会員の高齢化が進みつつあるが、本学会は、常に「実践教育」を重視し、活動を進めてきた。令和3年、本学会は、日本学術会議協力学術研究団体に指定され、現在、様々な分野の研究者が集い始めている。

個人的には、今後、教員になった若い人たちの困難さに寄り添いえる組織である「現職教員を守る研究会」を形にしていきたいと考えている。

特に、若手教員の方々には、得意分野を持つことの重要性を伝えていきたい。

日本基礎教育学会発足当初、運営に当たられてきた小山正見氏は、俳句の普及活動に尽力されている。自分の毎日を、俳句につづり、写真と共に送付して下さる。俳句をもって、学校を経営し、教育に当たられてきた。

横須賀薫氏（文字学園女子大学前学長）は斎藤喜博氏の研究者であり、群読作品を作られ学生にも指導されていた。

「里の秋」の作詞者である斎藤信夫は、千葉県出身の小学校の教員であった。終戦を境に小学校教師を辞職した。昭和16年発表した「星月夜」が、若い人たちを戦場に送りだしたと感じたからである。終戦後、作曲家 海沼實氏と出会い、「星月夜」の3番、4番を変え、「里の秋」を誕生させた。この歌は、戦地からの引揚者を勇気づける曲となり、多くの命を救った。

自分自身は楽器をやる。バイオリン、ギター等である。松本大学でも、学生たちとともに、音楽を通して交流を深めていった。学生にとっても、得意な楽器があることが、自分の特徴の1つとなっていた。

若手教員には、時間をかけて、自分自身の得意分野を構築して欲しい。それを見守り続ける「現職教員を守る研究会」でありたいと考えている。

研究発表① 高等教育におけるキャリア的視点からの初等教育・中等教育カリキュラム・マネジメントへの一考察—『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』を通して—

学校法人松商学園 上條 直哉氏

<発表要旨>

我が国は「新たな時代」へ移行する過渡期を迎え、中でも人材育成が課題となっている。学校教育においても急激な社会変化を背景に学習指導要領が改訂され、高等学校ではスクール・ミッション達成のために、スクール・ポリシーを通じてカリキュラム・マネジメントを行うことが求められている。大学等では先行して三つのポリシーが導入され、現在ではポリシー達成をアセスメントするフェーズに移行している。そして学生の個々の学修成果だけでなく、学校の教育目標や社会的意義の達成には学生が達成するキャリア的側面での評価も含まれてくる。今後は、大学のように高等学校においてもアセスメントを前提としたポリシー策定が求められ、個々の教員レベルだけでなく、学校の特性に沿った不断の検証やその結果について議論が必要である。スクール・ポリシーとカリキュラム・マネジメントは一体となって実施することが有効であり、今後は小学校、中学校においてもその必要性は高まるだろう。

<意見交換> ○：会員からの発言 ⇒：発表者からの回答

○ キャリア教育は特に校種間の接続が必要であるが、先生方のキャリア教育の理解には大きな開きがあり、校種間の接続には大きな課題がある。キャリアパスポートの導入が、変化のきっかけになることを期待している。教員採用試験では特に小学校の倍率が低くなっており、教員となってからの人材育成は急務である。

⇒ 学校現場では、キャリアパスポートが動き出してはいるものの、預かって終わってしまっているという現状である。キャリア教育については最終的な出口までを俯瞰し、学校種間が有機的に連携することが重要となる。教員養成では教員を目指す学生に対して、大学や実習先が十分な成長支援体制を確立していく必要がある。

<発表要旨>

本研究は、地域活性化を目的に、建設系科目を履修する大学1年生にアンケート調査を実施し、また、労働安全衛生を学ぶ大学院1年生にはインタビューを実施し、感電防止の労働安全衛生教育の実施適齢期について明らかにした。

感電防止の労働安全衛生教育の中に低圧電気取扱業務特別教育というものがある。この特別教育を受講して資格を取得した人は労働中に開閉器を操作できるため、この資格は建設業で重要資格とされている。しかし、大学1年生はこの資格を知らなかった。大学生はアルバイト中に開閉器を操作する可能性があり、大学1年生のうちに上記の資格を取得させた方が良い。また、大学院生のインタビューから感電防止の労働安全衛生教育のうち基礎部分は高校生までに学習させることが望ましいことを示した。

大学生や高校生は地域構成員の一員である。感電防止意識を備えた大学生や高校生が増えれば、地域安全は高まり地域活性化にも繋がることを示した。最後に新たな研究会の設置を提案した。

<意見交換> ○：会員からの発言 ⇒：発表者からの回答

○ 危険だということが分からなければ、危険は回避できない。できるだけ下の年代で、他の災害と共に学ぶ必要があるのではないか。感電災害防止のため、大学院生が高校生に教える事例を知りたい。

⇒ まだ事例はない。学校現場も電気使用の場面がある。楽器の演奏でも電気は使用する。音楽を学んでいる人こそ低圧電気取扱業務特別教育を受け進路に役立てて欲しい。また、労働安全衛生教育の根幹に基礎教育がある。

○ 管理職として学校に関わってきたが、ブレーカーの開閉に資格がいるという知識はなく、猛省している。

⇒ まさに、学校は、職場である。管理者(校長など)は、職員に開閉器操作をお願いする職員には所定の資格を取得させる必要がある。本学会の活動を通して基礎教育を軸にした労働安全衛生教育を更に発表していきたい。

研究発表③ “ベースボール型” 授業を創る

— 中学校“ベースボール型”ゲームにおける遊びを取り入れた授業の提案 —

<発表要旨>

本発表では、オフィシャルルールではなく「遊び」を取り入れた「ベースボール型」ゲームの提案をしたい。

近年、子どもの体力低下や運動部活動数、運動部員数の減少、さらにソフトボール競技における加盟校の減少といった我々が向き合わなければならない課題が多くある。そんな中、体育の授業で「ベースボール型」ゲームを取り扱う際、「どんなことが楽しいと感じるのか、何に夢中になっているのか」に視点をあてる必要があると考えられる。

ルールの難しさ、ボールの捕球や送球の技能の低さなどから、まず技能を身に付けないとゲームが成立しないと考えられがちである。しかしながら、「基礎練習」というトレーニングをしてやっと「メインゲーム」にたどり着くという学習過程は、楽しさを味わうまでに多くの基礎練習という障壁が子どもたちの前に立ちだかるのではないだろうか。「技能を高めなければならない」ことはもちろん大切ではあるが、基礎となる感覚や動きを段階的に「遊び」として取り入れることはできないだろうか。

<意見交換> ○：会員からの発言 ⇒：発表者からの回答<質疑>

○ ソフトボールの経験に基づいて提案された斬新なプランに感心した。それでも、そのルールについていけない子供たちもあり、子供たちが考えながらルールを作っていく余地も残しておきたい。

○ 10歳までがゴールデンエイジと言われるが、どう感じておられるか。ランニングやウォーキングを行う場合、負荷をかけた方がよいと言われているが、体力向上についてお考えを聞かせてほしい。

⇒ 5歳から12歳は、神経系の発達のピークがあり、様々な運動経験により、神経パターンをたくさん作ることは大事である。体力向上では、まず足に合った靴を選び、無理のない時間で、継続することが大事である。

上條氏「高等教育におけるキャリア的視点からの初等教育・中等教育カリキュラム・マネジメントへの一考察」について  
 学習指導要領をはじめ、多くの資料にあたり、カリキュラム・マネジメントについて詳細に検討されている。継続したキャリア教育は自立した社会人の育成にとって重要な内容である。スクールミッションとして、PDCA サイクルを回し、キャリア教育を構築していく必要がある。学校の全教職員がスクールポリシーを持ち続けることの重要性を改めて実感した。学校が組織的に動くために何より重要なポイントである。

#### 山中氏「感電災害を防止するための労働安全衛生教育についての研究」について

完全に門外漢であったが、感電災害防止について、興味深く聞かせていただいた。危険性を感覚的には理解していたが、実態を確認することができ、感電災害防止教育の重要性を痛感した。小学生から日常的に潜む危険性を理解させ、それぞれの学校段階で感電災害防止教育が必要である。労働安全衛生の大学院の講座の開講も意義深いものであると感じた。

#### 相馬氏「“ベースボール型” 授業を創る」について

ベースボール型の遊びを体験していない児童・生徒が増えていることは、授業での、生徒のバットの持ち方、ボールの投げ方で痛感していた。ベースボール型の遊びを通して、楽しみながら、進呈課題、出呈課題を解決し、ゲームの質の向上を図っていけるのは良いアイデアである。学習カードの代替として ICT 機器の活用も、映像による振り返りが可能となり、教員の指導もより実践的となり、運動の楽しさに通じていく可能性を感じた。

どの発表も「危機の時代からの再生に果たす基礎教育のあり方」に一石を投じる意義深いものであった。

#### 【事務連絡】

総会で、月例会について、以下の〈総会確認内容〉のように確認されました。しかし、コロナの感染拡大の終息に見通しが立たない状況で、会場の確保も難しい状態です。そこで、今年度も月例会はすべて Zoom で開催することとします。〈総会内容変更〉を確認ください。月例会実施要項については、月例会発表者の調査が終了次第連絡します。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

##### 〈総会確認内容〉

3 月例会 対面と Zoom を合わせて実施する。社会情勢によっては、Zoom 実施とする。

##### 第1回月例会

- 1 日時 10月1日(土) 15時00分～16時30分
- 2 場所 十文字学園女子大学 7号館4階741教室

##### 第2回月例会

- 1 日時 11月5日(土) 15時00分～16時30分
- 2 場所 十文字学園女子大学 7号館4階741教室

##### 第3回月例会

- 1 日時 12月3日(土) 15時00分～16時30分
- 2 場所 十文字学園女子大学 7号館4階741教室

※本年度の研究テーマである「危機の時代からの再生に果たす基礎教育のあり方」について、研鑽を深める月例会となるよう、月例会の発表者は、会員より公募する。8月下旬、公募を締め切り、研究部長を中心に調整を進める。

##### 〈総会内容変更〉

3 月例会 コロナ感染拡大の終息に見通しがつかないため、月例会は Zoom で実施する。

##### 第1回月例会

- 1 日時 10月1日(土) 15時00分～16時30分
- 2 場所 Zoom で実施し、十文字学園では行わない。

##### 第2回月例会

- 1 日時 11月5日(土) 15時00分～16時30分
- 2 場所 Zoom で実施し、十文字学園では行わない。

##### 第3回月例会

- 1 日時 12月3日(土) 15時00分～16時30分
- 2 場所 Zoom で実施し、十文字学園では行わない。

※本年度の研究テーマである「危機の時代からの再生に果たす基礎教育のあり方」について研鑽を深める月例会となるよう、月例会の発表者は、会員より公募する。8月下旬、公募を締め切り、研究部長を中心に調整を進める。